

高岡を面白くする人たち

御旅屋人の肖像



「モツ煮利長」店主

写真 田川 紘輝
Portrait by Hiroki Tagawa

文章 上野 賀永子
Text by Kaeko Ueno

大野 正晴



1964年北海道小樽市生まれ。幼稚園時代に旧福岡町に引越し、その後高岡市京町へ移る。京都でプログラミングを学び、関東での就職を経て、富山へリターンした。IT経営コンサルタント「オフィスクリエイション」を立ち上げ25年になる。「モツ煮利長」の店長としての顔も持つ。

由美子
スタッフ



両 親は富山県出身なのですが、僕自身は生まれが北海道で富山に移り、進学で京都に出て就職で関東という流れできました。プラズマディスプレイの会社にいたり、科学館の運営企画や、システム導入をしたり。富山にUターンして、企業に入ったんですが、どこの会社も同じだったらもう独立しようって立ち上げたのが「オフィスクリエイション」で、25年目になります。IT活用支援や経営コンサルの会社です。僕自身は結構長く生かされたと思っちゃって、社会的に大きな外部環境の変化がなかったら、このままずっといて、隠居してのびのび生活しようかなと思ってたんですよ。

でも、ここ4、5年の間に生成AI、ChatGPTの進展がもうすごいですよね。ある機会に、学生さんがAIを日常的にフルに使ってることを肌身で感じました。それで従来 of 事業は、もう長く続かないと2年前にちょっと思って。

去年ますますその実感を湧いたものだから「だったら生成AIで影響しないところは？」って言ったら、AIは考えることができる。喋ることもできるし、見ることもできる。五感の中で、触感と味覚は、まだまだコンピューターでは立ち打ちできないなと考えたんです。そうになったら飲食業だなんて。そういう流れなんですよ。

令和6年の秋から情報を集めてモツ煮は30回以上試作し、現在に至るというような感じです。御旅屋人マーケットはテストマーケティングの場として非常に有効だと感じています。3月から11月まで毎月出店し、季節変動を含めたデータも蓄積してきましたし、創業前後の事業者にとってこのような段階的な挑戦の場は街の創業支援や活性化に不可欠ですね。設備自体整っていますし。こういうチャレンジの場をなくさないでほしいと思います。

Publisher
上野 賀永子

Creative Director
カイジウウインク

Publishing
高岡市中心市街地活性化協議会

これまでも今も将来も 人の協力やアドバイスって 絶対有効だと思う。

モツ煮利長」開業準備室

富山県高岡市美幸町2丁目2-28（オフィスクリエイション内）

0766-20-6652

イベントのみで出店

Instagram: @motsunitoshinaga

アメーバブログ : <https://ameblo.jp/mattarigm/>

